

第三章: 暮らしと人々

この章では、マッサ・マリッティマ中心部の人々の暮らしに焦点を当てて述べていく。その都市的空間とはどのようなものであるか、また、小さなコムーネがどのように機能しているのか、という内容を、実際の暮らしと照らし合わせて記述する。これは、マッサ・マリッティマについて具体的に述べていくものであるが、イタリア全体として普遍的ともいえる要素を大いに含んでいる。

3-1 日常の都市風景

■パール

イタリアの都市に典型的なのが、パールであろう。BAR と書くが、酒場ではなく、コーヒーショップ、フランス式でいうとカフェといったほうがいだろう。コーヒーを飲むだけでなく、カウンターでエスプレッソを注文し、立ち話をするというケースが圧倒的に多く、日ごろの息抜きや、知り合いとの交流、情報交換などの場としても非常に有効である。

マッサ・マリッティマのようなヒューマンスケールの都市空間のある街では、車両規制があるから、旧市街は実質上、歩行者天国となり、広場や街路に、パールやレストランのテーブルが置かれていることが多い。特にいい季節に、屋外のテーブル席に気の合う人たちと座り、食前酒をゆったりと飲んだり、ジェラートに舌鼓を打ったりするのは、とても優雅な時間といえる。



図 3-1 マッサ・マリッティマ パールのある風景

※この章に掲載の写真は、特筆がない限り、筆者自身による近年の撮影である。

第 6 章で、「都市の質」ということに触れるが、その中の指標のひとつとして、住民あたりのレストランやパールの件数というのが上がっている。レストランは、住民が日常的にいくところではないので、パールということに限ってみると、確かにマッサ・マリッティマには大変な数が見られるのである。その中でも旧市街、チッタ・ヴェッキア地区の大聖堂周辺が最も多く、地図上で見ると、直径 300m の中に 7 軒が確認される。

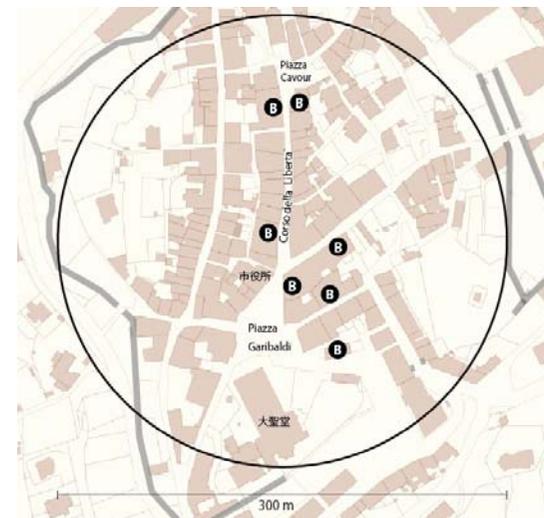


図 3-2 大聖堂とその広場周辺のパールの位置

※以下、この章に掲載の位置を示す図はすべて、トスカーナ州 Regione Toscana 提供の地図をベースに筆者が作成。

■パネッテリーア

パン屋のことであるが、パンは主食であるから、パン屋へ行くのはほぼ毎日のことである。最近ではスーパーでも買う人も増えているが、街中のパン屋もまだまだ健在である。パールにしろ、パネッテリーアにしろ、徒歩圏内にいくつもあるのも、自分の家から一番近いところに行くとは限らない。誰もが自分のお気に入りのパール、お気に入りのパネッテリーアを持っているはずで、それらに常連客として通っている場合が少なくない。

パネッテリーアの場合、どの客がどのパンを買うか、覚えている場合がほとんどで、常連になれば、こちらから言わずともいつものパンを出してくれる。窯を併設しているところと、別の所にある場合があるが、いずれも店舗は小さく、香ばしい焼きたてのパンが所狭しと並んでいる。あらゆる人が出入りするもので、最新の生情報を得られることも多い。